

図画工作科学習指導案

庄原市立西城小学校 大田 由美

1 日 時 平成17年10月21日(金)第2校時

2 学 年 第6学年 14名

3 題材名 名画を楽しもう (鑑賞)

4 題材について

- 本学級の児童は図工が大好きで、図工の時間をとても楽しみにしている。1学期に行った「みんなピカソ」では、これまで児童がもっていた「良い絵」の概念を崩すことと名画に親しむということをねらいとして学習をした。この学習により、児童は、ピカソという画家の作品をいろいろな角度から見て、自分と友だちの感じ方の違いに気づく経験をした。また、「こんな絵を描くのもおもしろい。」「一つの顔に二つの表情があるのがおもしろい。」などと楽しんでピカソの絵を見たり、自らピカソの表現方法を真似て描いたりすることにより、ピカソの抽象的な絵の中に、よさやおもしろさがあるということに気づいていた。このような取組みの結果、ピカソやピカソの作品に対して親しみを覚えるとともに、写実的な絵にのみ価値があるのではないというように、絵に対する見方にも少しずつ変化が現れた。さらに、友だちと比べて自分の作品の出来を見るのではなく、自分らしさや自分なりの工夫を大切にしたいという児童が増えてきた。
- 本題材では、一般に名画といわれる様々な美術作品を児童に提示し、児童が気に入った作品の部分と部分を組み合わせて、自分なりの新しい名画づくりに取り組ませる。この活動を通して、児童は、より主体的に名画にかかわることができる考える。また、いろいろな画家の表現方法へ関心を向け、多様な表現方法も身につけることができる。さらに、友だちとの交流の中で、自他の見方の違いや感じ方、好みの違いに気づき、友だちの理解を深めたり、作品の見方を広げたりすることができる。このような一連の活動をすることで、児童は美術作品に親しみ、それらを見ることを楽しみにするようになり、今後の人生を豊かにする一助になると考える。
- 指導にあたっては、まず、児童がこれまでにあまり見たことのない画集などをたくさん準備し、十分な時間をもって作品に出合わせていく。また、読書タイム等を利用して、絵画に関する絵本を読み聞かせるなど、名画を身近なものに感じさせる工夫をする。気に入った作品を選ばせる段階では、その作品が気に入った理由や、おもしろいと感じたところなどを、自分と対話しながらワークシートに書かせるようにする。そして、試行錯誤しながら自分が納得のいく下絵をつくらせ、それぞれの画家の表現方法を生かして新しい名画に生まれ変わらせるようにする。画家の表現方法に加え、自分なりの表現を入れたいという児童に対してはそれも認めていく。それぞれの作品が完成したら、もとの作品と自分がつくった新しい名画を友だちに紹介し、交流させる。交流する中で、それぞれの感じ方の違いや作品の見方を学ばせ、学習の前と後とでの名画に対する思いの変化について考えさせるようにしたい。

5 研究主題との関連

生き生きと自己表現する西城っ子を求めて ～豊かな発想をし、自己肯定感を高める造形活動を通して～			
I 題材に出合い、思いをふくらませていく工夫	II 自分の思いのままに表現し、つくりだす喜びが実感できる指導・支援のあり方	III 認め合い、学び合う学習集団づくりと評価のあり方	
○ たくさん名画と出合わせ、自分のお気に入りを見つけさせる。 ○ 名画の部分と部分を組み合わせた参考作品を見て、自分なりの新しい名画をつくってみたいという意欲をもたせる。	○ 自分のお気に入りの作品を見つける時間を十分保障する。 ○ 児童の思いを尊重し、思い通りに表現できるよう支援をする。	○ 作品とのかかわり・作品選び・組み合わせ・表現という流れの中で、個別に細かく評価を行う。 ○ 自分自身の評価をしっかりと行うとともに、友だちの感じ方や表現の仕方のよさを評価させる。 ○ 友だちの作品から自分と友だちの相違点に気づき、自分理解・友だち理解を深めさせる。	
【ことばの教育との関連】			
○ 自己評価の段階で、自分が感じたことや考えたことをことばで表現する力を育てる。 ○ 鑑賞の段階で、自分と友だちの感じ方の違いに気づき、互いの理解を深めるための意見交流の力をつける。			

6 題材の目標

- 主体的に多くの美術作品に出会い、それらの作品に親しむ。
- 表したい絵の一部分を自分で選び、自分なりの構成を考える。
- 画面構成や色の使い方を工夫して表す。
- 作品に対する自他の見方や感じ方の違いに気づくとともに、作品の見方を広げたり、深めたりする。

7 題材の評価規準

ア 造形への 関心・意欲・態度	イ 発想や構想の 能力	ウ 創造的な 技能	エ 鑑賞の能力
① 美術作品に関心をもち、気に入った作品をみつけている。 ② 作品に興味をもち、楽しんで作品づくりに取り組もうとしている。	① いろいろな名画の部分を、試しながら構想している。	① 名画の特徴を生かして組み合わせ、工夫して表現している。	① 自分らしい見方や感じ方で作品を鑑賞しながら、作者の意図や表現方法についての感想をもっている。 ② 自分の作品のよさを紹介したり、友だちの作品のよさやおもしろさを評価したりしている。

8 指導と評価の計画（全7時間）

次 (時数)	学習内容	評 価					
		関	発	創	鑑	評価規準	評価方法
一 (2)	○ 参考作品を見て、美術作品を組み合わせる自分なりの名画をつくることを知る。 ○ 美術作品の部分を選び、組み合わせる作品のもとになるアイデアスケッチを描く。	○			○	・ 美術作品を楽しんで鑑賞し、作品選びをしている。 ・ 作品を選んだ理由をふり返しカードに詳しく書いている。 ・ 気に入った作品を集め、組み合わせを考えながらアイデアスケッチを描いている。	行動観察 ふり返しカード 作品
二 (3)	○ 作品の特徴やよさを味わいながら、自分なりの名画をつくる。			○	○	・ 作品の特徴や良さを味わっている。 ・ 組み合わせた作品の表現方法を生かしながら、工夫して作品をつくっている。	行動観察 ふり返しカード 作品
三 (2)	○ 作品を鑑賞し合う。(本時 1/2)				○	・ 自分の作品を紹介したり、友だちの作品のよさやおもしろさを評価したりしている。	行動観察 ふり返しカード 作品

9 本時の展開

(1) 本時の目標

- 自分の作品に込めた思いやできた作品に対する思いを友だちに伝える。
- 友だちの作品を見て、構図や表現のよさ、おもしろさに気づく。

(2) 観点別評価規準

- 自分の作品に込めた思いを伝えている。
- 友だちの作品の構図や表現方法について感想をもっている。
- 自他の作品の相違点やよさに気づいている。

(3) 準備物 作品、画集、ふり返しカード

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 【評価方法】
1 本時の課題を確認する。 名画から生まれた「新しい名画」を鑑賞しよう。 2 鑑賞会を開く。 ・ どの画家のどんな作品をもとに名画をつくったのか。 ・ どうして、その絵を選んだのか。 ・ どうして、こういう題をつけたのか。 ・ 組み合わせのおもしろさ。 3 学習のまとめをする。 ○ 鑑賞者と交流をして感じたことや友だちの作品を見て感じたことを発表しよう。 ・ 友だちからの感想を聞いて、自分では思っていなかったよいところが発見できた。 ・ いろいろな絵のかき方があったことが分かった。 ・ 一つの絵を見ても、それぞれ感じ方が違うということが分かりおもしろかった。	・ 一人一人が各々の名画づくりに一生懸命取り組んできたことを評価し、鑑賞会への意欲を高める。 ・ 認め合う雰囲気づくりをし、交流が活発に行えるようにする。 ・ 感想交流をする上での、鑑賞のポイントを提示する。 ・ 交流が活発に行えるように2組に分かれて鑑賞会をする。 ・ 作者が作品を紹介した後、鑑賞者が質問や感想を言うようにさせる。 ・ 感想交流に参加できずにいる児童には、思いを聞きそれを発言できるよう励ます。 ・ ふり返しカードに今日の活動についての感想やこの学習を通しての感想を記入させ、その後、発表させる。	おおむね満足できる状況 ・ 自分の作品のよさを自覚し、表現したかったことを伝えている。 ・ 友だちの作品を鑑賞し、その絵の構図や表現方法について感想をもっている。【発言】 ・ 鑑賞会を通して、自他の相違点やよさに気づいている。【ふり返しカード、発言】